

京都市左京区総合庁舎整備等事業 建築レポート



皆様、こんにちは、10月度の作業は、B1～3階の仕上工事を行い屋上では屋根葺き工事を開始しました。B1～2階では間仕切り壁や天井のボード貼り、電気器具の取り付けを行い、3階では鉄骨天井下地、先行設備配管、配線工事、サッシの取付け工事などを行いました。

11月度も引き続きB1～3階の仕上工事及び外壁の仕上工事を進めていく為、資材の搬入車輛が多く出入りします。ご迷惑をお掛けしますが、細心の注意を払い安全最優先で工事を進めて参りますので、皆さまのご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

今月は、左京区総合庁舎の避雷針の統合接地システムについてお知らせいたします。

全 景

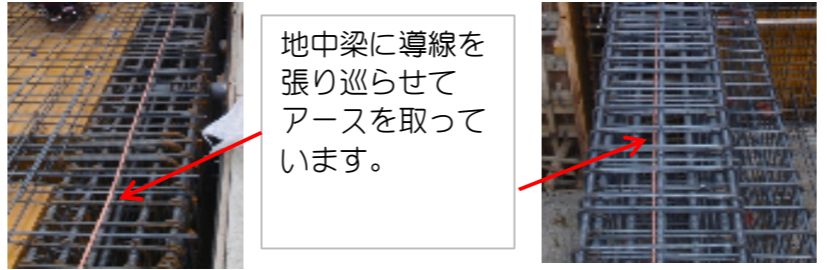
屋上では屋根工事が始まりました。



避雷針とは

避雷針とは、建物や、その中にいる人を守るためのものです。高い建物の一番上に建ってる槍のような物です。落雷が起こった際には雷を受け止めて、安全に地面に流します。

統合接地システム



統合接地システムとは目的の異なる接地（アース）を一つの共用システムとして考えるもので、大きな目的としては、落雷時・地絡事故時にビル内の全てのものを等電位（鳥が電線にとまっても感電しない現象）にすることで感電および各機器の損傷を防ごうとするものです。これにより落雷時でも電気設備・情報通信機器が安定して使用することが出来ます。

完成予想パース



従来のシステム

従来のシステムでは、避雷針に落ちた雷を導線もしくは、建物の一部の柱を使って、地面に逃がしています。その場合、一部の電気設備・情報通信機器の接地（アース）と干渉して影響が出る場合がある。

